

II 公募の内容

公募は、できるだけ早く研究者が研究を開始できるようにするため、審査のための準備を早期に進めることができるように、平成26年度予算成立前に始めるものです。

したがって、予算の成立状況によっては、今後、措置する財源等、内容に変更があり得ることをあらかじめ御承知おきください。

1 公募する研究種目

今回、文部科学省が公募する研究種目は次のとおりです。

科研費（補助金分）（新学術領域研究、特別研究促進費）

注「特別研究促進費」は、スケジュール及び応募手続き等が新学術領域研究とは異なりますので、18頁を参照してください。

2 応募から交付までのスケジュール（新学術領域研究）

（1）応募書類提出期限までに行うべきこと

研究代表者は所属研究機関と十分連携し、適切に対応してください。

日 時	研究代表者が行う手続 (詳細は、「Ⅲ 応募される方へ」を参照)	研究機関が行う手続 (詳細は、「Ⅴ 研究機関の方へ」を参照)
平成25年 9月1日～ 公募開始	<p>①応募書類を作成 (研究機関から付与されたe-Radの「ID・パスワード」により、科研費電子申請システム(以下「電子申請システム」という。))にアクセスし作成)</p> <p>↓</p> <p>②所属する研究機関に応募書類を提出(送信)(当該研究機関が設定する提出(送信)期限までに提出(送信))</p>	<p>【必要に応じて行う手続】</p> <p>① e-Rad運用担当からe-Radの「研究機関用のID・パスワード」を取得(既に取得済の場合を除く) ※ID・パスワードの発行に2週間程度必要。</p> <p>② e-Radへの研究者情報の登録等</p> <p>③ 研究代表者に「ID・パスワード」を発行(既に発行済みの場合を除く)</p> <p>④ <u>ガイドラインに基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」の提出</u> (提出期限：10月4日(金))</p>
11月8日(金) 午後4時30分 提出期限		<p>⑤ <u>応募書類の提出(送信)</u></p>

注1) 研究代表者が所属する研究機関に応募書類を提出(送信)(「研究代表者が行う手続き」②)した後、当該研究機関は応募書類提出期限までに応募書類を提出(送信)(「研究機関が行う手続き」⑤)しなければなりません。

については、研究代表者は、「応募書類の作成・応募方法等」(28頁～36頁)等を確認するとともに、研究機関が指定する応募手続等(研究機関内における応募書類の提出期限等)について、研究機関の事務担当者に確認してください。

注2) 研究者が科研費に応募するに当たっては、事前に、e-Radに研究者情報が登録されていなければなりません。e-Radへの登録は研究機関が行うこととしていますので、応募を予定している者は、その登録状況について研究機関の事務担当者に十分確認してください。

注3) 研究機関は、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」を提出しなければなりません（「研究機関が行う手続き」④）。提出がない場合には、電子申請システム上で、当該研究機関に所属する研究者の応募が認められません。

(2) 「新学術領域研究（研究領域提案型）」の応募書類提出後のスケジュール（予定）

「新学術領域研究（研究領域提案型）」の「新規の研究領域」に応募する場合には、応募書類提出後のスケジュールが他の研究種目と異なるため、「Ⅲ 応募される方へ」を十分確認してください。

新規の研究領域	継続の研究領域 (計画研究・公募研究)
平成25年 12月～26年6月 審査	平成25年 12月～26年3月 審査
平成26年 6月下旬 交付内定	平成26年 4月上旬 交付内定
7月中旬 交付申請	4月下旬 交付申請
7月下旬 交付決定	6月下旬 交付決定
8月中旬 送金（前期分）※	7月中旬 送金（前期分）※
10月頃 送金（後期分）※	10月頃 送金（後期分）※

※審査・評価業務は文部科学省が行い、交付内定以降の交付業務は日本学術振興会が行います。

※平成24年度より、交付請求額（直接経費）が300万円以上となる場合には、前期分（4月～9月）、後期分（10月～3月）に分けて送金し、交付請求額（直接経費）が300万円未満となる場合には、前期に一括して送金しています。

3 各研究種目の内容

① 新学術領域研究（研究領域提案型）

(1) 新規の研究領域（「新規の研究領域」に関する公募の内容）

ア) 目的

研究者又は研究者グループにより提案された、我が国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域について、共同研究や研究人材の育成等の取り組みを通じて発展させる。

イ) 対象

次のいずれかに該当する革新的・創造的な学術研究の発展が期待される研究領域であって、協同して推進する複数の研究者で構成される研究グループの有機的な連携の下に領域の学術水準の向上を図るもの。

- ・多様な研究者による新たな視点や手法による共同研究等の推進により、当該研究領域の新たな展開を目指すもの。
- ・異なる学問分野の研究者が連携して行う共同研究等の推進により、当該研究領域の発展を目指すもの。
- ・既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域の創成を目指すもの。
- ・当該領域の研究の発展が他の研究領域の研究の発展に大きな波及効果をもたらすもの。
- ・学術の国際的趨勢等の観点から見て重要であるが、我が国において立ち遅れており、当該領域の進展に格段の配慮を必要とするもの。

※過去に、「新学術領域研究（研究領域提案型）」又は他の研究費において採択された研究領域が、それまでの成果を踏まえ更なる発展を目指す研究領域の提案も可能。

ウ) 応募金額

1 研究領域の応募金額は、単年度当たり 1 千万円から 3 億円程度

エ) 研究期間（領域設定期間）

5 年間（左記以外の研究期間の応募は審査に付さない）

オ) 採択予定領域数

おおむね十数領域程度（極めて厳選されたもの）

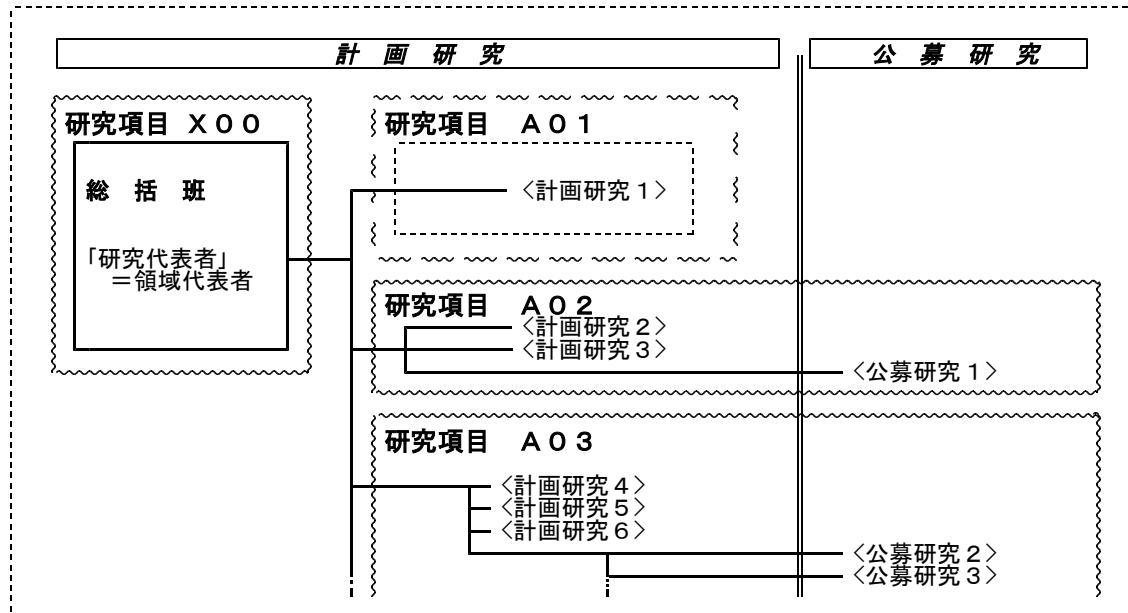
カ) 研究領域の構成

- ・研究領域は、「計画研究」と「公募研究」により構成すること。
- ・「計画研究」を相当数設け、必ず「総括班」を1つ設定しなければならない（「総括班」及びその他の「計画研究」、「公募研究」を必ず設けること。設けていない場合には、応募研究領域は審査に付さない。）。
- ・応募の段階で、研究期間の途中から計画研究を追加する計画は認めない。
- ・「公募研究」については、領域設定期間の1年目に平成27～28年度分、3年目に平成29～30年度分の公募を行う。次の最低基準のどちらかを上回るよう設定すること。
 - 1年目と3年目それぞれの採択目安件数が10件を上回ること
 - 公募研究にかかる経費の総額（平成27～30年度の合計）が領域全体の研究経費（5年総額）の10%を上回ること
- ・最低基準を上回るにとどまらず、新学術領域研究の目的及び当該領域の特性を踏まえ、当該領域の研究の幅広い発展を目指す上で必要な件数及び必要な金額とするよう努めること。

区 分	内 容
計画研究	研究領域を発展させるため、領域代表者（「総括班」の研究代表者）が、当該研究領域に関する研究を行う者をあらかじめ組織して、計画的に進める研究（総括班による計画を含む）
総括班	研究領域の全体的な研究方針の策定、企画調整、研究支援活動（研究領域内で共用する設備・装置の購入・開発・運用、実験試料・資材の提供など）等を行う組織（実際に研究を行わない組織） 当該研究領域の領域代表者が研究代表者となり、当該研究領域を構成する全ての「計画研究」の研究代表者が必ず組織の構成員（研究分担者及び連携研究者）になるものとする。また、「計画研究」の研究分担者を必要に応じて組織の構成員（研究分担者又は連携研究者）にすることもできる。なお、「計画研究」の研究代表者及び研究分担者以外の者は総括班の研究分担者になることはできない。
公募研究	一人の研究者が、当該研究領域の研究をより一層推進するために「計画研究」と連携しつつ行う研究であり、当該研究領域の設定後に公募する。

- 注 1. 公募研究の金額を設定する際は、一課題あたりの研究遂行が十分可能な研究経費を計上すること。
2. 計画研究については、中間評価の結果、審査の必要があると判断された場合、領域設定期間の3年目に当たる時期に計画調書を提出する必要がある。この際、中間評価結果を踏まえ、継続する計画研究の見直しを行うことや、新たな計画研究を応募することも可能。
 3. 公募研究の研究期間は2年間（領域設定期間の2～3年目及び4～5年目）とし、領域設定期間の1年目と3年目に当たる時期に公募を行う。
 4. 研究領域を効率的に発展させるため、研究テーマや領域における役割などにより「計画研究」や「公募研究」をグループ化した研究項目を設定することができる。
 5. 研究代表者の交替は、原則として、総括班研究課題以外は認められない。
 6. 総括班研究課題の直接経費を、当該研究領域の他の研究課題の研究を遂行するために直接必要とする経費として配分することは認められない。

○研究領域の構成（イメージ）



※研究項目には、電算処理の都合上、A01などの研究項目番号を付すこととなりますが（総括班については、X00とします。）、具体的な付番方法については、「平成26年度科学研究費助成事業—科研費—公募要領（新学術領域研究・特別研究促進費）別冊」を御覧ください。

○研究領域の構成員の「総括班」への参画について

研究領域を構成する研究者は、「総括班」に以下の立場で参画することになります。

研究領域の構成員		「総括班」への参画
領域代表者	→	研究代表者（必須）
計画研究の研究代表者	→	研究分担者又は連携研究者（必須）
計画研究の研究分担者	→	研究分担者、連携研究者又は研究協力者 （必要に応じて）
計画研究の連携研究者又は研究協力者	→	連携研究者又は研究協力者 （必要に応じて）

- 1) 領域代表者は、必ず「総括班」の研究代表者となります。
- 2) 「計画研究」の研究代表者は、「総括班」の研究分担者又は連携研究者として必ず参画しなければなりません。
- 3) 「計画研究」の研究分担者は、必要に応じて「総括班」に参画することができます。
- 4) 「計画研究」の研究代表者及び研究分担者以外の者は、必要に応じて「総括班」の連携研究者又は研究協力者として参画することができますが、「総括班」の研究分担者になることはできません。

キ) 審査希望区分の選定

応募に際しては、研究計画の内容に照らし、審査を希望する区分を「人文・社会（人社）」、「理工」、「生物」、「人社・理工」、「人社・生物」、「理工・生物」、「人社・理工・生物」から必ず1つ選択してください。なお、「理工」については、「数物系科学」「化学」「工学」のうちから関係が深いと思われる区分を1つ又は複数選択してください。

(2) 継続の研究領域（「既に設定されている研究領域に係る研究課題」に関する公募の内容）

「計画研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる研究領域

応募対象は、別表1（14頁参照）で示す20の研究領域（平成23年度開始）に係る「計画研究」の研究課題のうち、中間評価の結果、審査の必要があると判断された「計画研究」の研究課題。（応募が必要な計画研究については中間評価実施後に、領域代表者とその所属研究機関、ならびに対象となる計画研究の研究代表者の所属研究機関に通知する予定です。）

※提出が必要な時期に応募がなければ、平成26年度以降の交付予定額が交付されない場合がありますので、注意してください。

「公募研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる研究領域

応募対象は、別表2（15頁～16頁参照）及び別表6（49頁～68頁参照）で示す研究領域（平成23年度又は平成25年度開始）に係る「公募研究」(※)の研究課題

- ※1. 「公募研究」には、研究分担者を置くことができません（ただし、必要に応じて連携研究者を研究に参画させることができる。）。また、研究期間が1年間の研究課題は審査に付されません。
- ※2. 「公募研究」については、研究領域毎の専門委員会（領域外の研究者を含め構成する予定）において、各評価者が書面による審査を行った後、同一の評価者が合議により審査を行う予定です。
- ※3. 「公募研究」については、中間評価の結果等により採択目安件数及び応募金額の上限が変わる可能性があります。この場合には、10月上旬以降、電子申請システム及び文部科学省ホームページに掲載するとともに各研究機関に対してその旨を周知します。

(3) 平成25年度に設定期間が終了する研究領域

ア) 対象

平成25年度に設定期間が終了する別表3（17頁参照）の21研究領域

イ) 応募資格者

終了研究領域の領域代表者

ウ) 対象となる経費

終了研究領域の研究成果の取りまとめを行うための経費

エ) 応募金額

21研究領域（別表3参照） 300万円以内

(4) 重複制限の取扱い等

ア) 「新学術領域研究（研究領域提案型）」に関する重複制限の取扱い

「新学術領域研究（研究領域提案型）」の研究代表者及び研究分担者に関する重複制限については、別表4（25頁～26頁参照）のとおりです。応募書類を作成する前に、必ず確認してください。

なお、「平成25年度に設定期間が終了する研究領域」の領域代表者（総括班の研究代表者）が、研究成果の取りまとめを行うために応募する場合には、研究代表者及び研究分担者について、同一の研究種目及び他の研究種目との間で重複応募の制限は課されません。

イ) 応募書類や応募方法等

「新規の研究領域」に応募する場合と「継続の研究領域」の計画研究又は公募研究に応募する場合で、応募書類や応募方法が異なりますので注意してください。なお、詳細については、「Ⅲ 応募される方へ」の「応募書類の作成・応募方法等」を確認してください。

別表1 新学術領域研究（研究領域提案型）のうち「計画研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる研究領域一覧（20研究領域）

番号	領域番号	研究領域名	領域略称名	領域設定期間
1	1301	法と人間科学	法と人間科学	平成23年度～平成27年度
2	2301	天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御	ケムバイオケム	平成23年度～平成27年度
3	2302	太陽系外惑星の新機軸：地球型惑星へ	系外惑星	平成23年度～平成27年度
4	2303	先端加速器LHCが切り拓くテラスケールの素粒子物理学～真空と時空への新たな挑戦	テラスケール物理	平成23年度～平成27年度
5	2304	有機分子触媒による未来型分子変換	有機分子触媒	平成23年度～平成27年度
6	2305	超高速バイオアセンブラ	バイオアセンブラ	平成23年度～平成27年度
7	2306	ナノメディシン分子科学	ナノメディシン	平成23年度～平成27年度
8	2307	超低速ミュオン顕微鏡が拓く物質・生命・素粒子科学のフロンティア	超低速ミュオン	平成23年度～平成27年度
9	2308	シンクロ型LPSO構造の材料科学 ―次世代軽量構造材料への革新的展開―	シンクロLPSO	平成23年度～平成27年度
10	3301	統合的神経機能の制御を標的とした糖鎖の作動原理解明	神経糖鎖生物学	平成23年度～平成27年度
11	3302	脳内環境：恒常性維持機構とその破綻	脳内環境	平成23年度～平成27年度
12	3303	上皮管腔組織の形成・維持と破綻における極性シグナル制御の分子基盤の確立	上皮管腔組織形成	平成23年度～平成27年度
13	3304	ゲノム・遺伝子相関：新しい遺伝学分野の創成	ゲノム遺伝子相関	平成23年度～平成27年度
14	3305	ゲノムを支える非コードDNA領域の機能	非コードDNA	平成23年度～平成27年度
15	3306	少数性生物学―個と多数の狭間が織りなす生命現象の探求―	少数性生物学	平成23年度～平成27年度
16	3307	生命素子による転写環境とエネルギー代謝のクロストーク制御	転写代謝システム	平成23年度～平成27年度
17	3308	マトリョーシカ型進化原理	マトリョーシカ	平成23年度～平成27年度
18	4301	精神機能の自己制御理解にもとづく思春期の人間形成支援学	自己制御精神	平成23年度～平成27年度
19	4302	動的・多要素な生体分子ネットワークを理解するための合成生物学の基盤構築	合成生物学	平成23年度～平成27年度
20	4303	予測と意思決定の脳内計算機構の解明による人間理解と応用	予測と意思決定	平成23年度～平成27年度

別表2 新学術領域研究（研究領域提案型）のうち「公募研究」に係る研究課題の応募書類を提出する時期に当たる研究領域一覧（40研究領域）

注)各研究領域の概要については、「別表6 新学術領域研究(研究領域提案型)の研究概要」(49頁～68頁)を確認してください。

番号	領域番号	研究領域名	領域略称名	領域設定期間	公募研究の期間	件数(程度)	単年度当たりの応募金額(1年間)	概要の頁
1	1301	法と人間科学	法と人間科学	平成23年度～平成27年度	2年間	4 4	200万円以内 100万円以内	49
2	1501	新興国の政治と経済発展の相互作用パターンの解明	新興国の政治経済	平成25年度～平成29年度	2年間	6 6	250万円以内 150万円以内	49
3	2301	天然物ケミカルバイオロジー:分子標的と活性制御	ケムバイオケム	平成23年度～平成27年度	2年間	30	300万円以内	50
4	2302	太陽系外惑星の新機軸:地球型惑星へ	系外惑星	平成23年度～平成27年度	2年間	3 6	300万円以内 100万円以内	50
5	2303	先端加速器LHCが切り拓くテラスケールの素粒子物理学～真空と時空への新たな挑戦	テラスケール物理	平成23年度～平成27年度	2年間	3 3	700万円以内 200万円以内	51
6	2304	有機分子触媒による未来型分子変換	有機分子触媒	平成23年度～平成27年度	2年間	48	300万円以内	51
7	2305	超高速バイオアセンブラ	バイオアセンブラ	平成23年度～平成27年度	2年間	12 8	300万円以内 750万円以内	52
8	2306	ナノメディシン分子科学	ナノメディシン	平成23年度～平成27年度	2年間	13	300万円以内	52
9	2307	超低速ミュオン顕微鏡が拓く物質・生命・素粒子科学のフロンティア	超低速ミュオン	平成23年度～平成27年度	2年間	9 9	400万円以内 100万円以内	53
10	2308	シンクロ型LPSO構造の材料科学 一次世代軽量構造材料への革新的展開	シンクロLPSO	平成23年度～平成27年度	2年間	8 6	400万円以内 280万円以内	53
11	2501	生命分子システムにおける動的秩序形成と高次機能発現	動的秩序と機能	平成25年度～平成29年度	2年間	30	300万円以内	54
12	2502	ゆらぎと構造の協奏:非平衡系における普遍法則の確立	ゆらぎと構造	平成25年度～平成29年度	2年間	5 5 10	500万円以内 300万円以内 150万円以内	54
13	2503	理論と実験の協奏による柔らかな分子系の機能の科学	柔らかな分子系	平成25年度～平成29年度	2年間	30	300万円以内	55
14	2504	ニュートリノフロンティアの融合と進化	ニュートリノ	平成25年度～平成29年度	2年間	3 6 6	300万円以内 200万円以内 150万円以内	55
15	2505	ナノ構造情報のフロンティア開拓ー材料科学の新展開	ナノ構造情報	平成25年度～平成29年度	2年間	10	300万円以内	56
16	2506	原子層科学	原子層	平成25年度～平成29年度	2年間	12 15	300万円以内 200万円以内	56
17	2507	宇宙における分子進化:星間雲から原始惑星系へ	宇宙分子進化	平成25年度～平成29年度	2年間	4 9	600万円以内 200万円以内	57
18	2508	3次元半導体検出器で切り拓く新たな量子イメージングの展開	量子イメージング	平成25年度～平成29年度	2年間	5	680万円以内	57
19	2509	分子アーキテクトニクス:単一分子の組織化と新機能創成	分子アーキテクト	平成25年度～平成29年度	2年間	16	250万円以内	58
20	3301	統合的神経機能の制御を標的とした糖鎖の作動原理解明	神経糖鎖生物学	平成23年度～平成27年度	2年間	3 15	500万円以内 400万円以内	58
21	3302	脳内環境:恒常性維持機構とその破綻	脳内環境	平成23年度～平成27年度	2年間	1 15	1,000万円以内 500万円以内	59
22	3303	上皮管腔組織の形成・維持と破綻における極性シグナル制御の分子基盤の確立	上皮管腔組織形成	平成23年度～平成27年度	2年間	3 10	600万円以内 400万円以内	59
23	3304	ゲノム・遺伝子相関:新しい遺伝学分野の創成	ゲノム遺伝子相関	平成23年度～平成27年度	2年間	12 4	500万円以内 1,000万円以内	60
24	3305	ゲノムを支える非コードDNA領域の機能	非コードDNA	平成23年度～平成27年度	2年間	12	500万円以内	60
25	3306	少数性生物学—個と多数の狭間が織りなす生命現象の探求—	少数性生物学	平成23年度～平成27年度	2年間	12 5	500万円以内 350万円以内	61

番号	領域 番号	研究領域名	領域略称名	領域設定期間	公募研究 の期間	件数 (程度)	単年度当たりの 応募金額(1年間)	概要 の頁
26	3307	生命素子による転写環境とエネルギー代謝のクロストーク制御	転写代謝システム	平成23年度～平成27年度	2年間	5 15	800万円以内 400万円以内	61
27	3308	マトリョーシカ型進化原理	マトリョーシカ	平成23年度～平成27年度	2年間	10 10	500万円以内 250万円以内	62
28	3501	オートファジーの集学的研究:分子基盤から疾患まで	オートファジー	平成25年度～平成29年度	2年間	18	450万円以内	62
29	3502	生殖細胞のエピゲノムダイナミクスとその制御	生殖エピゲノム	平成25年度～平成29年度	2年間	12	400万円以内	63
30	3503	植物発生ロジックの多元的開拓	植物発生ロジック	平成25年度～平成29年度	2年間	15	500万円以内	63
31	3504	動物における配偶子産生システムの制御	配偶子産生制御	平成25年度～平成29年度	2年間	3 5	800万円以内 500万円以内	64
32	3505	多様性から明らかにする記憶ダイナミズムの共通原理	記憶ダイナミズム	平成25年度～平成29年度	2年間	22	400万円以内	64
33	3506	動的クロマチン構造と機能	クロマチン動構造	平成25年度～平成29年度	2年間	12 4	500万円以内 250万円以内	65
34	3507	グリアアセンブリによる脳機能発現の制御と病態	グリアアセンブリ	平成25年度～平成29年度	2年間	15	400万円以内	65
35	4301	精神機能の自己制御理解にもとづく思春期の人間形成支援学	自己制御精神	平成23年度～平成27年度	2年間	6 12	600万円以内 400万円以内	66
36	4302	動的・多要素な生体分子ネットワークを理解するための合成生物学の基盤構築	合成生物学	平成23年度～平成27年度	2年間	6 10	600万円以内 300万円以内	66
37	4303	予測と意思決定の脳内計算機構の解明による人間理解と応用	予測と意思決定	平成23年度～平成27年度	2年間	14 3	500万円以内 1,000万円以内	67
38	4501	共感性の進化・神経基盤	共感性	平成25年度～平成29年度	2年間	10	500万円以内	67
39	4502	こころの時間学 ―現在・過去・未来の起源を求めて―	こころの時間学	平成25年度～平成29年度	2年間	12 13	500万円以内 300万円以内	68
40	4503	スパースモデリングの深化と高次元データ駆動科学の創成	疎性モデリング	平成25年度～平成29年度	2年間	15 15	300万円以内 200万円以内	68

別表3 新学術領域研究のうち平成25年度に設定期間が終了する研究領域一覧
(21研究領域)

番号	領域番号	研究領域名	領域略称名	領域設定期間	領域代表者名(研究機関)
1	1101	環太平洋の環境文明史	環太平洋環境文明	平成21年度～平成25年度	青山 和夫(茨城大学)
2	2101	量子サイバネティクスー量子制御の融合的 研究と量子計算への展開	量子サイバー	平成21年度～平成25年度	蔡 兆申(理化学研究所)
3	2102	医用画像に基づく計算解剖学の創成と診断・治 療支援の高度化	計算解剖学	平成21年度～平成25年度	小畑 秀文(東京農工大学)
4	2103	原子が切り拓く極限量子の世界ー素粒子的宇宙 像の確立を目指してー	極限量子	平成21年度～平成25年度	笹尾 登(岡山大学)
5	2104	多彩なフレーバーで探る新しいハドロン存在形態 の包括的研究	新ハドロン	平成21年度～平成25年度	飯嶋 徹(名古屋大学)
6	2105	反応集積化の合成化学 革新的手法の開拓と有 機物質創成への展開	集積反応化学	平成21年度～平成25年度	吉田 潤一(京都大学)
7	2106	超深度掘削が拓く海溝型巨大地震の新しい描像	超深度海溝掘削	平成21年度～平成25年度	木村 学(東京大学)
8	2107	配位プログラミングー分子超構造体の科学と 化学素子の創製	配位プログラム	平成21年度～平成25年度	西原 寛(東京大学)
9	2108	地殻流体: その実態と沈み込み変動への役割	地殻流体	平成21年度～平成25年度	高橋 栄一(東京工業大学)
10	2109	プラズマとナノ界面の相互作用に関する学術基 盤の創成	ナノ界面プラズマ	平成21年度～平成25年度	白谷 正治(九州大学)
11	2110	背景放射で拓く宇宙創成の物理ーインフレーション からダークエイジまでー	宇宙創成の物理	平成21年度～平成25年度	羽澄 昌史(高エネルギー加速器 研究機構)
12	3101	動植物に共通するアロ認証機構の解明	動植物アロ認証	平成21年度～平成25年度	澤田 均(名古屋大学)
13	3102	天然変性タンパク質の分子認識機構と機能発現	天然変性蛋白質	平成21年度～平成25年度	佐藤 衛(横浜市立大学)
14	3103	植物生態学・分子生理学コンソーシアムによる陸 上植物の高CO2応答の包括的解明	植物高CO2応答	平成21年度～平成25年度	寺島 一郎(東京大学)
15	3104	非コードRNA作用マシナリー	非コードRNA	平成21年度～平成25年度	泊 幸秀(東京大学)
16	3105	哺乳類初期発生の細胞コミュニティー	細胞コミュニティー	平成21年度～平成25年度	藤森 俊彦(基礎生物学研究所)
17	3106	内因性リガンドによって誘導される「自然炎症」の 分子基盤とその破綻	自然炎症	平成21年度～平成25年度	三宅 健介(東京大学)
18	4101	人とロボットの共生による協創社会の創成	人ロボット共生学	平成21年度～平成25年度	三宅 なほみ(東京大学)
19	4102	現代社会の階層化の機構理解と格差の制御: 社 会科学と健康科学の融合	社会階層と健康	平成21年度～平成25年度	川上 憲人(東京大学)
20	4103	ヘテロ複雑システムによるコミュニケーション理解 のための神経機構の解明	伝達創成機構	平成21年度～平成25年度	津田 一郎(北海道大学)
21	4104	過渡的複合体が関わる生命現象の統合的理解 ー生理的準安定状態を捉える新技術ー	過渡的複合体	平成21年度～平成25年度	嶋田 一夫(東京大学)

② 特別研究促進費

○突発的に発生した災害などに関する緊急の研究

他の研究種目の応募書類の提出時には予想できなかった研究課題（突発的に発生した災害に関する研究など）であり、かつ、平成26年度に実施しなければならない緊急の研究課題（早急に研究を開始しないと対象が滅失してしまう研究など）であって、極めて重要なものが発生した場合には、文部科学省研究振興局学術研究助成課科学研究費第一係（電話03-6734-4087）に、研究機関を通じて連絡・相談してください。

なお、上記の緊急の研究課題に関して「特別研究促進費」に応募しようとする研究代表者及び研究分担者については、同一の研究種目及び他の研究種目との間で重複応募の制限は課されません。

<参考>特別研究促進費（突発的に発生した災害などに関する緊急の研究）の審査に当たっての着目点

- ・ 突発的に発生した自然災害等を研究対象とするものであるか。（事前に予測できなかったものか）
- ・ 当該年度中に実施しなければならないものであるか。（研究対象が滅失等してしまうものか）
- ・ 十分な社会的要請、学術的価値のあるものであるか。
- ・ 他の研究資金による対応ができないものであるか。